

第 35 回電波功績賞表彰式を開催

6月25日（火）、第14回定時総会に引き続き、第35回電波功績賞表彰式を開催しました。当会の津賀会長の挨拶に続き、渡辺総務副大臣からご祝辞を頂戴し、電波功績賞選考委員会の高畑委員長より選考結果をご報告いただきました。続いて、渡辺総務副大臣から総務大臣表彰が授与され、津賀会長から電波産業会会長表彰が贈呈されました。

その後、受賞者を代表して加島様（株式会社日立国際電気プロダクト本部製品開発第二部 副技師長）よりご挨拶がありました。



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列 竹内様 新保様 城田様 三島様 成瀬様 浅井様 足立様 藤本様 福本様 佐藤様

前列 今川総合通信基盤局長 加島様 川西様 菅野様 高畑選考委員長 渡辺総務副大臣 津賀会長 米本様 中村様 李様
中村電波政策課長

1. 総務大臣表彰

(1) 「90GHz 帯 滑走路路面異物検知システムの開発と実証」

株式会社日立国際電気

代表 加島 謙一 殿 (株式会社日立国際電気 プロダクト本部
製品開発第二部 副技師長)

早稲田大学 理工学術院

代表 川西 哲也 殿 (早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部
電子物理システム学科 教授)

国立研究開発法人 情報通信研究機構

代表 菅野 敦史 殿 (国立研究開発法人 情報通信研究機構 ネットワーク研究所
フォトリック ICT 研究センター 光アクセス研究室 上席研究員)

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

代表 米本 成人 殿 (国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
電子航法研究所 上席研究員)

公益財団法人 鉄道総合技術研究所

代表 中村 一城 殿 (公益財団法人 鉄道総合技術研究所
情報通信技術研究部通信ネットワーク 研究室長)

航空機の離着陸時安全性確保に向け空港滑走路路面異物検知用の 90GHz 帯レーダーシステムを開発して実環境で所期性能を実証し、国際標準化では ITU-R WP5B で当該システムの規格化を推進するとともに、社会実装に向けて日本とマレーシア間の産学官連携スキームや実証実験システムを構築して制度化完了後の迅速な実用化準備を整えるなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「OAM-MIMO 無線多重伝送技術の研究開発」

日本電信電話株式会社

代表 李 斗煥 殿 (日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 上席特別研究員)

多重数増加による無線通信の更なる高速・大容量化に向け、OAM 多重伝送に MIMO 技術を統合した新技術を考案し、実証実験では世界で初めてミリ波帯で 100Gbps 無線伝送に成功するとともに、さらに 35GHz 幅以上にわたって各 OAM モードに必要な位相を与えるアンテナ一体型 Butler 回路を開発してサブテラヘルツ帯での 1.4Tbps 無線伝送に世界で初めて成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

2. 一般社団法人電波産業会会長表彰

(1) 「次世代地上デジタルテレビジョン放送の伝送技術の研究開発」

日本放送協会 放送技術研究所

次世代地上デジタルテレビジョン放送伝送技術研究開発グループ

代表 竹内 知明 殿（日本放送協会 放送技術研究所

伝送システム研究部 チーフ・リード）

より高品質、高機能な次世代地上放送の実現に向け、超多値 OFDM、LDPC 誤り訂正符号、不均一コンスタレーション等を採用して周波数利用効率がよく伝送耐性に優れた伝送技術を開発し、現行地上放送と同じ所要 C/N において伝送容量を約 1.7 倍まで拡大することで、1 チャンネルで 4K 放送 2 番組と 2K 放送 2 番組の同時伝送の実現性を示すなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「Cell Free massive MIMO 及び光ファイバ無線多重伝送を用いたユーザーセントリック RAN の開発」

株式会社 KDDI 総合研究所 ユーザーセントリック RAN 研究開発チーム

代表 新保 宏之 殿（株式会社 KDDI 総合研究所 電波応用グループ

シニアエキスパート）

Beyond 5G/6G の移動体ネットワークを実現すべく、複数の基地局アンテナとユーザー端末間の無線信号処理を一括して行うことで干渉低減を図る Cell Free massive MIMO 技術と、複数の基地局の無線信号を一括して収容できる光ファイバ無線多重伝送を用いて、ユーザー端末に安定した通信を提供するユーザーセントリック RAN の実証システム開発に成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「6GHz 帯無線 LAN の制度化および商用化」

クアルコムジャパン合同会社

代表 城田 雅一 殿（クアルコムジャパン合同会社 標準化本部 本部長）

Apple Japan Inc.

代表 三島 安博 殿（Apple Japan Inc., Wireless Design Regulatory,
Lead Engineer）

株式会社バッファロー

代表 成瀬 廣高 殿（株式会社バッファロー ネットワーク開発部

ODM 第一開発課 課長）

日本電信電話株式会社

代表 浅井 裕介 殿（日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
特別研究員）

株式会社東芝

代表 足立 朋子 殿（株式会社東芝 研究開発センター

ワイヤレスシステムラボラトリー フェロー）

日本国内における 6GHz 帯対応無線 LAN（IEEE 802.11ax/be、Wi-Fi 6E/7）の制度化に向け情報通信審議会や総務省が実施する技術試験事務において、既存システムへの干渉評価や共用の技術的条件策定で主導的役割を果たし、最大周波数チャンネル幅 320MHz の高速大

容量無線 LAN 導入を実現するとともに 6GHz 帯や Wi-Fi 7 への対応製品を市場投入して普及を拡大するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4) 「小型一体型基地局の商品化による、ローカル 5G 普及への貢献」

日本電気株式会社 デジタルネットワーク統括部

代表 藤本 幸一郎 殿 (日本電気株式会社 エアロスペース事業部門
衛星コンステレーション事業開発室 上席事業主幹)

無線部と制御部を一体化して小型化・軽量化・低価格化を図った基地局「UNIVERGE RV1000 シリーズ」を開発・製品化し、2022 年 1 月より市場投入してローカル 5G の普及拡大に寄与するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(5) 「WRC-23 における HAPS 携帯電話基地局向け周波数追加の実現」

ソフトバンク株式会社

代表 福本 史郎 殿 (ソフトバンク株式会社 渉外本部 電波政策統括室
制度開発部 部長)

地上基地局の設置が困難なエリアや災害時において携帯電話のネットワークを補完する「空に浮かぶ基地局 (HAPS 携帯電話基地局)」の実用化に向け、WRC-23 議題 1.4 (HAPS 携帯電話基地局の周波数追加) の議論において、日本代表団として ITU-R、APT 等での検討をリードし、HAPS 携帯電話用に 700~900MHz 帯、1.7GHz 帯及び 2.5GHz 帯の追加を実現するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「2.5GHz/2.6GHz 帯国内衛星移動通信システムの高度化に関する開発・実用化」

株式会社 NTT ドコモ NTN 推進グループ

代表 田村 穂積 殿 (株式会社 NTT ドコモ 代表取締役副社長*) *選考時役職

LTE 方式の通信性能と超大型展開アンテナ搭載のデジタルハイスループット通信衛星 N-STARe の中継器性能を有効利用し従来の 6 倍以上の同時接続数 (音声換算: 12,000 以上) 及び 3GHz 帯以下の衛星移動通信システムで世界最速の下りデータ通信速度 (最大 3Mbps / 従来の約 8 倍) を実現した衛星移動通信サービス「ワイドスターⅢ」を 2023 年 10 月より提供するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。



表彰式における
津賀会長の挨拶



表彰式における
渡辺総務副大臣のご祝辞



表彰式における
高畑選考委員長のご報告



受賞者を代表して
加島様のご挨拶